

第8回 片瀬山市民の家再整備調整会議 議事要旨

日 時：2023年（令和5年）10月18日（水）15時30分～17時5分

場 所：片瀬市民センター 第1談話室

出席者：【検討委員】渋谷会長、松本副会長、甲斐氏、若月氏、林氏、北川氏、
荻野氏、坂間氏、井口氏

【事務局】（市民自治推進課）日原参事、野田補佐

（片瀬市民センター）幸田センター長、森井主幹

欠席者：【検討委員】和田氏、畠山氏、正田氏 【事務局】（市民自治推進課）森主幹

資 料：【資料1】第7回片瀬山市民の家再整備調整会議 議事要旨

【資料2】配置イメージ(Ver. 4)

【資料3】諸室の機能・仕様等

【資料4】調整会議終了後の進め方について

議 題

（1）前回の議事の確認

資料1に基づいて事務局から説明。前回会議の要旨について資料記載のとおり確認された。また、諸室に関していただいたご意見については、今回の会議資料に反映した旨が説明された。

【質問・意見】

- ・「（1）再整備方針（概要版）（案）について」の【質問・意見】の3点目について、「インターネットで“第5回片瀬山市民の家再整備調整会議”と検索したところ」という表現に修正してほしい。
⇒（市）修正する。
- ・余剰地の売却の話はどうなったのか。駐車場を作るという話もあったが。
⇒（市）前回に説明したとおり現在、売却の予定はなく、駐車場とする方向で検討を進めている。
- ・インターネットで検索した資料（上記の“第5回片瀬山市民の家再整備調整会議”と検索して見つかった資料）に“売却”との記載があった。第5回の会議で指摘したときに市は“知りません”との話だった。（持参した検索画面の写しをコピーするよう依頼あり）市が知らないはずはなく、売却の方針が決まっているのであれば売却するようになりましたと説明してほしい。
⇒（市）過去に売却の話があったことは知っているが、今の市の方針として売却

の考えはない。

- ・しかし、インターネットに出ている。そうでないのであれば修正が必要ではないか。市しか知らないような情報が出ている。それを無視して議論を進めているのはおかしいのではないか。そもそも土地を半分売却の話があり、それに対して反対が起こったことから始まっている。当時の話から違っているのであればこの会議で説明するべきではないか。（コピーされた資料を委員に配付）
- ・（市）これは市のホームページの記事ではない。委員の発言の趣旨は市が売却を考えているかどうかを聞きたいのではないのか。市が知らないことはなく、売却の話があったことは知っている。
- ・このホームページは誰が作っているのか。インターネット上の記事は真偽がわからないし、古い記事も残っている。
- ・（市）市のホームページに会議資料と議事録を載せているが、このホームページの記事を誰が書いたのかはわからない。
- ・インターネット上のフェイクニュースが問題になっている。その記事にこだわるより今の市の考えを聞けば良いのでは。
- ・片瀬山環境委員会というところが自治会などから入手した情報をかもら版のような形で載せている。確認は環境委員にするべき。市が作ったものではないので市では分からないのではないか。事実はこの会議でやってきたこと。
- ・議事要旨の6回目をもらっていないのではないか。
⇒（市）第7回会議の時に作成が間に合わず確認を省略したがそのままになっていた。後日皆さまに郵送してご確認いただくようにさせていただきます。

（2）配置イメージ（Ver. 4）について

事務局から資料2に基づき説明された。

資料2は、前回の会議でいただいたご意見を踏まえて作成したもの。

なお、今回の資料作成に当たり、事前に渋谷会長からご連絡をいただいていたため、その内容を会長から委員に説明していただきたい。

- ・（渋谷会長）運営委員会の会議で雨天の時を考慮すると掃除をする人の問題が出てくるため、上履きのほうが良いのではないかという意見になり、市に提言して採用していただいた。
⇒（市）土足による使いやすさはあるが、雨天時などはどうしても施設内に砂や泥が入ってしまうと思われる。完成後の施設を維持管理していくのは運営委員会なので、運営委員会の負担も考慮しなければいけない。そのため上履きの案を採用し、今回の配置イメージを作成した。

市から配置イメージの変更点について、以下のとおり説明。

- ・入口に玄関スペースを設けて下駄箱を設置した。
- ・「事務スペース」を部屋に変更して事務室にした。
- ・ホールの収納について、キャスター付長机の収納を考慮して拡大した。
- ・上履き化によってホールの下駄箱、和室の前室が必要なくなったため削除した。
- ・和室の床の間を半分にして、残り半分を収納にした。
- ・防災備蓄倉庫について、内側にも扉を設けた。
- ・キッチンスペースの上に手洗いを設置した。これは、子ども食堂で使用する場合に必要な設備として保健所から意見をいただいたもの。

(3) 諸室の機能・仕様等について

事務局から資料3に基づき説明された。

- ・前回いただいたご意見と資料2の変更に合わせて資料3も変更している。
- ・「ホール兼会議室」について、“遮音性と使い勝手のバランスに配慮したもの”という記載を加えた。
- ・「フリースペース」について、テーブルを“コンセント付”とした。
- ・「キッチンスペース」について、“入口の近くに配置”と、“コンロは大型の鍋に対応するもの”の記載を加えた。
- ・「事務スペース」を「事務室」に変更した。
- ・「トイレ」について、女性専用個室を1室設けて、残り2室を男女共用とした。
- ・「その他」については、“玄関スペース”と“和室の踏込”を加えた。
- ・屋外スペースの「駐輪場」について“10台程度”の記載を加えた。

(市) 今回が最後の確認。この内容で大丈夫か再度ご確認いただきたい。

- ・ドアは全て引き戸か。開き戸だとぶつかる恐れがある。
⇒ (市) 今の段階では考えていないが、引き戸のほうが開けっ放しにできるので良いかと思う。
- ・キッチンスペースには扉が付かないとの認識でよいか。
⇒ (市) そのとおり。扉を設けずにフリースペースと繋がりのある空間にする。

(市) 繰り返しになるが、配置イメージの図は、この会議での検討用の資料。実際の設計については、市が要求水準書で条件を示して業者にオリジナルの設計案を提示してもらおう。最終的に完成する建物は、部屋のレイアウトや駐車場の位置などが配置イメージと異なるものになるので、ご承知置きいただきたい。

(市) では、この内容で進めさせていただく。

(4) 調整会議終了後の進め方について

事務局から資料4に基づき説明された。

同様の資料第6回の会議で配付しているが、その資料に内容を加えたもの。

<スケジュールについて>

令和5年度に再整備方針（基本構想）を固める。令和6年度は、公共施設再整備プランの位置づけを検討事業から実施事業に格上げするための調整を進めていく。令和7年度に業者選考を行い設計・施工に入り、令和8年度に供用開始の予定。

令和6年度の次年度予算要求で新施設の整備費用を市の財政部門に予算要求する。このときに財政部門から要求内容に無駄がないかなど査定を受けるため、結果的に予算が一部削られる可能性がある。この会議で新施設の概要は固めたが、予算査定の結果、部屋の大きさや機能などが少し縮小する可能性があるので、あらかじめご了承ください。

<仕様等の詳細について>

施設の概要はこの会議で決定したが、細かい部分で調整が必要となった場合には運営委員会と調整をさせていただく。

<余剰地の活用について>

駐車場等による活用を検討を進めている。

<説明会の開催・ニュースの回覧について>

時期は未定だが片瀬山の郷土づくり推進会議（まちづくり協議会）や片瀬山1～5丁目の住民向けにこれまでの経緯や新施設の概要などを説明する予定。

また、片瀬山市民の家再整備ニュースについて第2号を作成して経緯等を片瀬地区に回覧する予定。

以上の内容については、現時点の予定。庁内調整の結果、多少ずれる場合がある。

【質問・意見】

- ・説明会は2月の市長選挙が始まると落ち着かなくなるので早めに行ってほしい。
- ・複合施設とする提言内容を市が拒否したものであるので査定を厳しくやってもらっては困る。この会議の要望に沿った施設を作ってもらわないと住民は納得しない。このことは予算要求のときに強く言ってほしい。
⇒（市）予算を確保できるような限りの説明をしていく。
- ・説明会は年度内に実施するのか。
⇒（市）ニュースの内容と合わせて説明をすることになるので、ニュースの時期によるができるだけ早く実施したい。
- ・ニュースは全戸配付か
⇒（市）全戸回覧の予定。自治会の広報部長の負担が大きくなっているため、重点的な地域は全戸配付も考えられるが、その他はできれば回覧のほうが負担がない。

- ・片瀬山だけでも全戸配付すると住民の理解が得られると思う。
- ・（市）ニュースには配置イメージは載せない予定。イメージ図がそのまま完成すると誤解されてしまう可能性があるため。

【全体を通しての質問・意見】

- ・（この会議の感想として）私は片瀬山幼稚園跡地に何を作るかという市民集会からずっと出席している。この会議にその時のメンバーが3人いるが、そのほかは全て新しい人。「片瀬山市民の家再整備調整会議」という名称で会議が始まったが、コロナ禍で2年間検討が止まっていた間に市のほうでは複合施設にしないことが形づくられていたのではないかと。第2回資料の「要望事項に対する市の考え方」の86項目のうち丸印は最初は14個だけ。次の会議で27個に増えたが、内容は軽いものばかりだった。つまり、最初から複合施設とする考えはなかったのではないかと。これまで避難施設と何回も言ってきたが虚しさがある。新施設は避難所として公表することにはなったが今の市民の家と何が違うのか。大きな部分では太陽光発電やフリースペースの設置があるが、太陽光発電は今の施設では当然の設備。片瀬中の補完的な役割として要配慮者を収容するということだが、片瀬小や白百合学園にも要配慮者が出るのだから片瀬地区全体で考えることが必要なのに考え方が非常に狭い。複合施設とならないことによって片瀬と片瀬山で断絶が起こるのではないかと。複合施設にならないとはっきり言われたのは前回の会議だと思うが、他の委員からは反対がなく暗黙のうちに了解されていたのかと不思議な感じがした。この会議には決定権はないがもう少し委員から主張が欲しかった。提言書で受け入れられたのは太陽光発電だけではないか。シャワーもなく弱者を収容できるのか。片瀬山に作る避難施設を片瀬中が補完するくらいの気概を持ってやるべきだった。
- ・この会議から参加された方は分からないかもしれないが、最初から関わった人にとっては180度変わった印象がある。市職員も当初の経緯がしっかりと引き継がれていないのかもしれない。要望の15%くらいは取れたと思っているが、取れただけ良かったのでこれで手を打ちたいと思っている。市が災害対策を全市的に考えていないことが分かった。
- ・市民の家が立派にできるのであれば市民自治推進課はよくやったと思う。しかし、藤沢市の市政としては避難施設を作らなかったことは失政だと思う。将来、災害が起きた時になぜあの時に作っておいてくれなかったんだという声は必ず出る。いい土地が空いて提言書を作って進めてきたが、結果的に市民の家が広がって新しくなりましただけでは寂しい。
- ・市議員を巻き込めなかったのが残念。参加していたらもう少し違ったかもしれない。

- 民生委員の中でも災害が来たらどうしようということが課題になっている状況の中で、新しい建物として少し違うかなという思いがある。
- この会議から参加したが、片瀬山幼稚園の跡地に片瀬山市民の家が新しく建つと聞いてから長い間どうなるのか分からなかったが、興味を持っている方は多くいた。この会議の議論に参加して、当初の予定とは異なるものかもしれないが、一つの形としてこういう施設ができる場所に参加できたことは良かったと思う。この会議の意見に沿った施設ができあがることを楽しみにしている。片瀬地区の住民だが完成したときには使わせていただきたい。
- この会議から参加したため過去の経緯が分からず、意識の違いがあることを感じた。まだ何年かかかるようだが、片瀬山幼稚園がなくなったあと直ぐに片瀬山市民の家ができると思っていたので早く完成してほしいと思う。
- 議論をしていく中で当初の考えとは違ってきたかもしれないが、なるべく近づけようとしてくれていることは感じていた。この会議で議論した施設をこのまま実現できるようにしてほしい。
- 複合施設にはならないが、いざという時には多少の避難所にはなるのでそれでいいと思った。また、私は片瀬山の住民だが片瀬山と片瀬の人が断絶することはないと思っている。東日本大震災のときにもそうだったが、片瀬山は観光客や片瀬の人が避難してくるところだから片瀬山の住民は自宅がつぶれない限りは自宅にいるようにしなさい、そのための備蓄を1週間分くらいしておきなさいという話がある。なので片瀬山と断絶が起こるといふ発言はとても悲しい。
- 市民集会をやったあとにそういう話が出るのではないかと思う。災害が起きれば片瀬山にお世話になることはわかっているが、市民集会をやればなぜそうなったのかという話になると思う。避難施設に関して片瀬の人間の思いは強いから。
- 私は長く片瀬山の防災会で片瀬中の避難所の運営などをしてきた。今の片瀬山市民の家は耐震性がないので大地震が来れば壊れる。代替地が幼稚園跡地となって避難所として考えた時にどれだけの避難者を収容できるか。避難所として作るよりも汎用的な施設を作るべきだと思っている。片瀬中学校でできない部分を新施設でできればいいと思っていた。限られた時間、予算の中でなるべく早く作ってほしいというのが避難所にこだわらない理由。避難所として病院のようなものを作るにはとてもお金がかかるし管理も大変。いざというときに避難所として使える施設とすると、これまで検討してきたような内容になるのかと思う。また、片瀬から避難してくる方をどうやって迎え入れるかは毎回検討して訓練している。避難所については市のほうでもっと考えてほしいと思う。湘南白百合学園も現実的には避難所としては使えないと思う。また、湘南白百合学園小学校の小学生は津波が起こった時に湘南白百合学園中学校・高等学校に避難する訓練をしているのに、湘南白百合学園小学校

を一時避難場所としているのはおかしいのではないか。避難所として片瀬中学校と同じ規模の施設を作ることができればいいが、そうはいかないので片瀬中学校に個別のテントを備えることなどにお金を使ってほしい。仮設住宅を片瀬中学校に設置する場合、大雨が降るとすぐに校庭に水が溜まってしまう。幼稚園跡地に避難施設を作ることも一つの案かもしれないが、そこにこだわらなくてもよいのではないか。

- ・私が考えていたのは片瀬中や白百合学園が避難所になっているので、そこでの要配慮者が優先的に入れる施設を望んだのであってそんなに大きなものではない。中学校の体育館で雑魚寝することが難しい妊娠されている方や病気の方などが優先的に入れる施設を複合施設として作ってくださいということ。
- ・問題が切り分ける必要があるが、もともとは市民の家の建て替えであって、災害があったこと踏まえてどうせ作るなら土地もあるのでもう少し大きいものを作りたいという思いがあった。しかし、公金を使う以上、この施設だけにお金をかける訳にはいかないということで複合施設にできないと決まったのが遅かった。市が言えないのは分かるが、もう少し早い段階で決まっていれば頭を切り替えて考えることができたのかもしれない。箱ものは運用次第でいかようにもできる。AEDや蓄電池など先進的なことを先駆けとして付けてくれたことは運営委員は感謝している。弱者を受け入れたければ入れれば良いだけ。運営をどうしていくかは大事。何とか予算を確保してほしい。
- ・市のほうで早くニュースを作ってもらって説明会をしてほしい。
- ・片瀬中学校には避難所運営委員がいるが、新施設に避難所運営委員を置くのか、市民の家の運営委員が対応するのか検討が必要。備蓄倉庫に入れるものによっては良い避難所になりうる。

⇒（市）新施設は避難所になるので片瀬中学校と同じように市の職員を配置した中で市民と一緒に運営していくことになると思う。片瀬中学校は現在も要配慮者などの部屋を教室に用意しているが、新施設のほうがプライバシーを確保できるので、新施設に入っていただくのも一つの方法だと思う。そこは避難所運営委員会や市の防災安全部と協議していく。要配慮者が同じ立場で同じ悩みを抱える方々同士で集まって避難所生活を送れるほうが安心につながると思う。

最後に

- ・（市）この会議をなぜ設けたかを振り返ると、令和2年に市に提出された提言書の内容をそのまま具現化することは市の計画に沿わない部分や財政的に難しい部分があるので、片瀬地区の皆さんと意見を交わしながら市の考えとの擦り合わせをして良い落としどころを見つけていきたいというのが目的だった。実際には要望をすべて叶えることができず皆さんには我慢を強いることが多かったが、市民

の家としては初めて指定避難所とすることやAEDや太陽光発電を設置するなど今後の新たな市民の家の形として示していけるものをまとめることができました。委員の皆様には昨年9月から1年以上に渡り多忙の中ご協力をいただき感謝を申し上げます。施設としては形が決まったので、あとは市民自治推進課のほうで令和8年度の供用開始に向けて市の内部調整を進めて良い施設ができるように頑張っていきたい。また、施設が出来上がってからがスタートになるので、皆さんに活用していただいて片瀬山と片瀬地区が盛り上がりより良い地域になることを願っている。

- ・（渋谷会長）9月30日までの任期を1か月伸ばしてもらい感謝している。市民自治推進課の範囲を超えてやってくれたことは進歩だと思う。最初の提言書からはずいぶん外れて片瀬の方には不満足な点があるかもしれないが、これからはどううまく運用するかが課題だと思うので運営委員会と市民自治推進課で調整していきたい。どうもありがとうございました。
- ・（日原参事）渋谷会長ありがとうございました。この会議はこれで終わりますが、今後運用の部分など詳細を詰める必要があるので運営委員会と調整させていただきたい。本当に多くのご意見、ご感想をいただき感謝している。率直に受け止めさせていただきたいと思う。公共施設を作るときには様々なご意見があり、全員が満足することはなかなか難しいが出来るところは最大限応えさせていただいた。この会議を通じて皆さんの市民の家に対する想いや期待を非常に感じた。我々のこれからの役割は、皆さんで作りに上げてきたものを早く実現させることなので一生懸命やっていきたい。新しい市民の家は駐車場が広がるので、皆さんには片瀬地区の市民の家としてご利用いただきたい。皆さん本当にお疲れさまでした。ありがとうございました。

以 上